

<参考資料－ 5 >

厚生労働省健康局水道課「管路の耐震化に関する検討会」報告書より抜粋 「小口径の管路耐震性向上策」

報告書P20 f)留意事項 「③小口径の管路」についての記載内容

f)留意事項

①その他の管種・継手

表7-1～5に示す管種・継手の耐震性能は代表的な管種のみを表示であるため、例示されていない管種・継手や今後高い耐震性を有した管が技術開発された場合には、技術的な追求と水道事業者の判断において使用することは可能である。

②配水本管と配水支管の分類

簡易水道においては、配水本管と配水支管の区別がない場合が多い。このような場合には配水管として配水支管が満たすべき耐震性能を満たす管種・継手を採用することとするが、できるだけ耐震性能の高い管種・継手を採用するよう努めることが望ましい。

③小口径の管路

φ40mm以下の管路においては、表7に示す管種・継手が存在しない場合がある。このような場合にあってはできるだけ耐震性能の高い管種・継手を採用するよう努めることが望ましい。

<参考資料－ 6 >

厚生労働省健康局水道課、日本水道協会 平成20年（2008年）岩手・宮城内陸地震水道施設被害等調査報告書より抜粋

4章 埋設管路の被害状況

4.2 栗原市の被害

4.2.2 導・送・配水管の被害件数についての記述内容（抜粋）

4.2.2 導・送・配水管の被害件数

表4.6に口径・管種・被害形態別の被害件数と被害率（被害件数/管路延長km）を示す。

主な傾向は以下の通りである。

- ①合計84件の被害が発生し、被害率は平均で0.065件/kmであった。
- ②硬質塩化ビニル管（TS、RR）の被害件数は63件であった。RR管路の被害は、栗駒・花山地区の中山間部では山崩れなどによるものであり、栗原市水道（栗駒、瀬峰など）などの平野部では道路亀裂がなどに起因している。継手別の管路延長が不明のため、全被害件数をVP管路延長で除して被害率を求めた。なお、RRロング継手は栗原市水道（瀬峰、志波姫）で約1.3kmの布設が確認され、被害はなかった。（RRロング継手は管路延長の分類がされていないため、工事店での聞き取り調査によった。）
- ③ダクタイル鉄管の被害は3件、栗原市水道（栗駒）と栗駒簡易水道で、何れも一般継手（T形、他）であった。栗原市水道（栗駒）には耐震継手が6.0km布設されていた（栗駒簡易水道を除く）が被害はなかった。他の地区を含めて耐震継手は約13.2km布設されている。
- ④铸铁管の被害はなかった。
- ⑤鋼管の被害は8件、栗原市水道事業（築館、瀬峰、高清水）と文字簡易水道で、何れもネジ継手・メカニカル継手であった。溶接継手はこれらの地区には布設されていないが、他の地区には約0.8km布設されている。
- ⑥PE管（二層ポリエチレン管）の被害は4件、栗原市水道（志波姫）と鶯沢と温湯および浅布・小川原簡易水道での金属継手部からの漏水であった。
- ⑦石綿セメント管の被害は6件であった。